

## お盆のころ

今年もお盆がやってきました。東京などは旧暦ということ  
で七月盆で行いますが、私の住んでいる埼玉県このあたり  
では月遅れの八月盆です。

もともとお盆は、亡くなった親を思う心からはじまったも  
のなんです。お釈迦さまの十大弟子の一人で目連もくせんという方  
は、お弟子の中でも神通第一といわれていますが、またこの  
方は大変な母親思いで、ある時、死んだ母親を神通力でたず  
ねますと、母親が餓鬼道に落ちて苦しんでいる……

それを救おうとお釈迦さまに相談すると、七月十五日の雨  
期の修行あけの日に供養をしないといわれたので、その日  
に大勢のお坊さんに施し物をして母親の供養をした。それが  
お盆のはじまりといわれています。

**お盆の期間は、入りの日が十三日で明けの日が十六日です  
から、四日間ですね。**大体、前の日の**十二日**に仏壇をきれいに  
掃除し、お位牌も拭いて花をとりかえ、「精霊棚」をつく  
ります。昔は竹を四方にめぐらしたりして手の込んだものをつ  
くりましたが、今では、お仏壇の前に小さい机を置いて白  
い布をかけ、そこに「まこも」を敷いてお供物などをいつも  
より多く供えるというようになってきました。ナスで牛をつ  
くり、キュウリで馬をつくらせて供えるといわれています。

**十三日**は提灯をもってお墓参りをし、そのときお墓でロー  
ソクに火をつけて、その火を提灯にうつして消さないように  
持ち帰り、家の精霊棚にその灯をうつします。これで、灯と  
一緒に先祖の霊をお迎えしたことになるのです。先祖の霊  
魂が一刻も早く懐かしい家にもどれるようにと、お迎えは早  
い方がいいといわれています。

また夜に帰ってくるかもわからない仏さまのために、十三  
日の夕方には門口でオガラをたいて、あなたの家はここです  
よと教えてお迎えしますが、それが迎え火です。

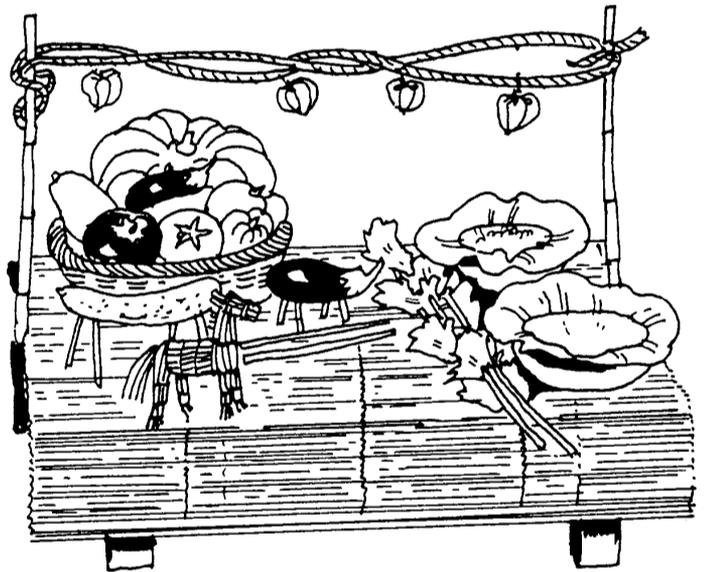
**十六日**（土地によっては十五日）は送り火といって、ご先  
祖さま、仏さまを送る日です。このときは、家の精霊棚の  
ローソクの火を提灯にうつして、消さないようにお墓まで  
持って行き、お墓参りをしてから灯を消します。ご先祖の霊  
を再び霊の世界に送りかえす、という気持ちからはじまった  
のが送り火の行事です。

お盆は、先に逝かれた亡き人々やご先祖さまと、心を通い  
合わせる大切な行事です。こまやかな心くばりで迎えたいも  
のですね

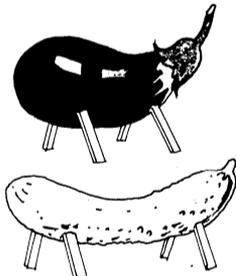
### せがき

#### 「施餓鬼会」

施餓鬼とは変わった言葉ですね。餓鬼道にあって、苦しむ  
一切の衆生に食物を施して供養することです。食事時にご飯



精霊棚とお供物



ナスやキュウリで馬や牛を作る

のひとつまみまみ（生飯とい  
ます）を餓鬼に施すことか  
らきています。このお供え  
は、僧侶の修行のときなど  
に今でも行います。行事と  
してはお盆の前後に行わ  
れ、正式には「施餓鬼会」  
ですが略して「せがき」と  
呼ばれます。本堂の入り口  
に施餓鬼壇をしつらえ、施  
餓鬼幡と水で供養する法要  
です。参詣者は、この時の善根（供養の気持ち）を我が家で  
先立つた人やご先祖に回らし、また幸薄かった水子や幼児の  
霊が迷う事なかれと、塔婆を添えるのです。仏教の教えそ  
のものは、私たちの心の癒しにつながる道を説いているので  
す。皆さんとともに、その大いなる教えに学んでいこうと思  
います。

### せがきの心

「お施餓鬼をします」と言うと、お檀家さんによって  
は、「毎年毎年、施餓鬼をするというが、うちの先祖は  
ずっと餓鬼に落ちたままなのか」と思われる方もおられ  
るようです。

これは、施餓鬼の供養を自分の家の先祖にのみ結びつ

けるから、そういう考え方がでてくるのでしょう。しかし、  
仏教ではむしろ無縁の衆生をこそ、その苦しみから救う  
べきであると考えたのであり、そういった教えがよくあ  
らわれているのが、この施餓鬼会なのです。

修行中の僧が食をいただくとき、鬼神に施すため、  
合掌して七粒の飯を鉢の縁におきます。鬼神の衆生に  
施す飯なので、これを生飯といいますが、そのとき、僧  
たちは、「汝等、鬼神衆よ、我れ今汝に供を施す。此  
の食を十方に遍くして、一切の鬼神と共にせんことを。  
上は三宝に分ち、中は四恩に分ち、下は六道に及ぼし、  
皆同じく供養せん」という意味の偈文を唱えます。

すなわちこれは、食を一切の鬼神に供養するととも  
に、さらに仏法僧の三宝にわかち、父母・衆生・国  
王・三宝の四つの恩にわかち、六道にも及ぼして、平  
等に供養するという考え方がかきかかっています。

つまり、仏教ではもともと苦しんでいる存在（こ  
こでは餓鬼）へ、慈悲の手をさしのべることを大事とし  
ておりますから、施餓鬼というお供えは、僧堂におい  
て日々の修行として勤めているのですが、これを、広  
く在家の人と一緒にいいます。これはいい功德な  
んですよという意味で、施餓鬼会を行っているわけ  
です。ですから、決してご先祖が餓鬼道に堕ちていると  
いう意味ではないのです。

では、どうしてこの施餓鬼会が、先祖供養と結びつ  
くのかと思われる方もおいででしょう。

こう考えていただければ、よろしいかと思えます。  
今、さいわいに私は、私の父母・祖父祖母・曾祖父  
曾祖母……と縁のある先祖に対して、追善の供養をす  
ることが出来る。しかし、それでは縁なき衆生の供養  
はだれがしてくれるのだろうか。その縁なき衆生は、わ  
たしの生命につながるのではないだろうか。この無縁の  
万霊の供養は、「願わくは此の功德を以て、普く一切  
に及ぼし、我等と衆生と、皆共に仏道を成ぜんこと  
を」と回向文にあるように、仏教の慈悲の教えに根ざ  
したものでないだろうか。

また、こうも言えます。

あなた自身が施餓鬼会の一の施主であると同時に、  
あなたは、ご先祖になり代わって施主を勤めるの  
でもあるのです。すなわち、亡き人が生前においてな  
された布施の功德を、さらにあなたが引き継ぎ、補い  
積むという意味で、亡き人をも施主の立場に見立てた  
供養が、この施餓鬼会なのです。したがって、それがま  
た先祖への供養になるわけです。